

くすり一口メモ

PPIの適応と用法・用量について

2011年9月、約10年ぶりにPPI（プロトンポンプ阻害剤）として新しく「エソメプラゾール」が薬価収載されました。近年、逆流性食道炎の有病率が増加してきたこと、NSAIDs、低用量アスピリン使用増加に伴う消化性潰瘍のリスクが増加してきたことで、PPIの役割に変化が生じてきました。こうした中、2010年には一部のPPIで、NSAIDs投与時や低用量アスピリン投与時の消化性潰瘍再発抑制に対し、保険が適応となりました。適応については、薬剤ごとに若干の違いがあるため、ヘリコバクター・ピロリの除菌療法も含めてまとめてみました。

PPIの適応

商品名	ネキシウム		オメプラール		タケブロン		パリエット	
	エソメプラゾール	オメプラゾール	ランソプラゾール	ラベプラゾール				
薬価収載	2011.9		2001.2	1991.4	1992.11 Cap	2002.6 OD錠	1997.12	
製造販売元	第一三共 アストラゼネカ		アストラゼネカ		武田薬品		エーザイ	
薬価	10mg	20mg	10mg	20mg	15mg	30mg	10mg	20mg
	96.7円	168.9円	88.0円	153.0円	95.2円	166.0円	143.0円	266.9円
剤形	カプセル剤		錠剤		カプセル剤 口腔内崩壊錠		錠剤	
適応症	1日の服用回数		備考		10mg	20mg	10mg	20mg
逆流性食道炎	初期治療	1日1回	最長8週間					
		1日1回8週間投与 で効果不十分時 1日2回	さらに8週間					
	維持療法	1日1回						
低用量アスピリン投与時の消化性潰瘍再発抑制	1日1回							
NSAID投与時の消化性潰瘍再発抑制	1日1回							
胃潰瘍	1日1回		最長8週間					
十二指腸潰瘍	1日1回		最長6週間					
Zollinger-Ellison症候群	1日1回		最長8週間					
非びらん性胃食道逆流症	1日1回		最長8週間					
下記における ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助 胃潰瘍・十二指腸潰瘍 胃MALTリンパ腫 特発性血小板減少性紫斑病 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃	1日2回		7日間					

用法・用量については、下表参照

ヘリコバクター・ピロリの除菌療法時の用法・用量

		ネキシウム	オメプラール	タケブロン(*1)	パリエット(*2)
ヘリコバクター・ピロリの除菌療法 (3剤同時に1日2回、7日間服用)	1次除菌	PPI	1回20mg 1日2回	1回20mg 1日2回	1回30mg 1日2回
		アモキシシリン	1回750mg 1日2回		1回10mg 1日2回
		クラリスロマイシン	1回200mg (max 400mg) 1日2回		
	2次除菌	PPI	1回20mg 1日2回	1回20mg 1日2回	1回30mg 1日2回
		アモキシシリン	1回750mg 1日2回		1回10mg 1日2回
		メトロニダゾール	1回250mg 1日2回		

(\*1)：タケブロンでは「3剤1シート製剤」があります。

1次除菌「ランサップ(2002.12収載)」 2次除菌「ランピオン(2010.11収載)」

(\*2)：パリエットは、10mg製剤のみ除菌療法の適応があります。

これまで、低用量アスピリンを含め、NSAIDs投与時の抗潰瘍剤としては、ミソプロストール（サイトテック®）のみ使用可能でしたが、保険適応の拡大により、2種類のPPIが使用できるようになりました。NSAIDs投与時の抗潰瘍剤としては、エソメプラゾール（ネキシウム®）、ランソプラゾール（タケブロン®15mg）が、低用量アスピリン投与時の抗潰瘍剤として、ランソプラゾール（タケブロン®15mg）が適応となりました。

除菌療法に使用する抗生物質は、商品名、剤形、規格により適応のないものがありますので、処方時にはご注意ください。

【参考文献】各社メーカー 添付文書  
(鹿児島市医師会病院薬剤部 西辻 恭子)